

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成28年度病害虫発生予察注意報第2号について

平成28年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

平成28年度病害虫発生予察注意報第2号

平成28年8月3日
宮 崎 県

病害虫名 いもち病 (葉いもち、穂いもち)

作物名 普通期水稻

1 発生地域 県下全域

2 発生量 多

3 注意報の根拠

- 7月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は27.5% (平年8.5%)、発病度は3.3 (平年0.5) で、発病株率は12.2% (平年1.7%) いずれも平年に比べて多の発生であった (図1, 2)。
- 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は55.0% (平年37.6%)、発病度は10.0 (平年4.3)、発病株率は34.1% (平年13.4%) でいずれも過去10年間と比べて最も多い発生である (図1, 2, 表1)。特に県北部の中山間地域で発生が多い。
- 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並または高い予報であるが、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想されていることから、穂いもちの発生に好適な条件となる可能性がある (鹿児島地方気象台7月28日発表1ヶ月予報)。

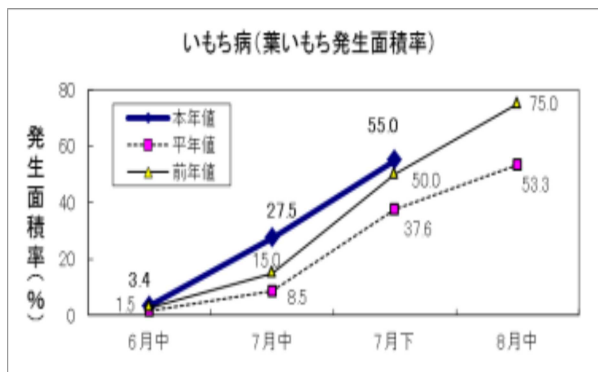


図1 巡回調査における発生面積率の推移

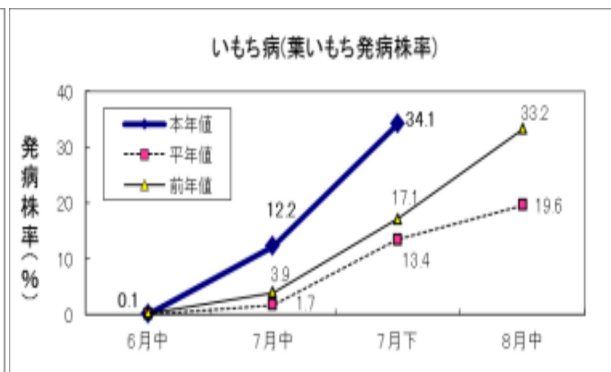


図2 巡回調査における発病株率の推移

表1 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生状況

	調査 地点数	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	発病度	発病株率 (%)
		甚	多	中	少			
東諸県	4	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0(22.5)	1.0(0.7)	4.0(2.6)
北諸県	10	0.0	0.0	10.0	40.0	50.0(18.9)	4.4(0.6)	17.2(2.5)
西諸県	8	0.0	0.0	0.0	37.5	37.5(30.0)	5.6(0.9)	22.5(3.4)
東臼杵	10	0.0	20.0	30.0	20.0	70.0(68.0)	20.2(12.5)	58.0(37.0)
西臼杵	8	0.0	0.0	37.5	25.0	62.5(65.6)	13.1(5.5)	52.0(21.0)
全県	40	0.0	5.0	17.5	32.5	55.0(37.6)	10.0(4.3)	34.1(13.4)
H27	40	0.0	0.0	10.0	40.0	50.0(—)	4.5(—)	17.1(—)

※ () 内は平年値 (H18-27)。ただし、西臼杵は過去4年間 (H24-H27) の平均値

4 防除上の注意

- 1) 夏季の高温により、葉いもちの発生は一時的に抑制されるが、今後の気象条件によっては、穂いもちの発生が助長されるので、穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- 2) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期前後に降雨日が多いと予想される場合は、穂揃期の7～10日後にも追加防除を行う。
- 3) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。
- 4) 窒素過多になると、本病に感染しやすくなるので、適正な肥培管理を実施する。
- 5) 同一系統の薬剤の連用は薬剤耐性菌の発生を助長することから、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。
- 6) 県内の一部地域ではストロビルリン系殺菌剤（以下、QoI剤）に対する感受性の低下したいもち病菌の発生が確認されているため、QoI剤の使用は年1回にとどめ、感受性の低下を助長しないように注意する。
- 7) BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の出現状況については、下記を参照。

※<http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki/800/300/suitou/h27/blastam201507.htm>

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
 （病虫害防除・肥料検査センター） 久野
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp